Microsoft SCVMM コンソール用 Veritas NetBackup™ アドインガイド

リリース 8.0

VERITAS™

Microsoft SCVMM コンソール用 Veritas NetBackup™ アドインガイド

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ (「サードパーティプログラム」) の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

http://www.veritas.com

.

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

https://my.veritas.com

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)	CustomerCare@veritas.com
Japan (日本)	CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

https://sort.veritas.com/documents

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

http://www.veritas.com/community/ja

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章 概要およびメモ 6

システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドインについて (SCVMM) 6
SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項 7
NetBackup 8.0 についての本ガイドの更新 8

第 2 章 NetBackup Add-in for SCVMM のインストール 9

SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件 9
NetBackup Add-in for SCVMM のインストール 9
インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed) 15
ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ 18
SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール 20

第 3 章 仮想マシンのリカバリ 21

NetBackup リカバリウィザードの設定 21
SCVMM 用 NetBackup アドインのための認証トークンの作成 21
認証トークンの取り消し 23
すべての現在の認証トークンのリスト 24
NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する 24
リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項 28
リカバリウィザードへのアクセス 29
仮想マシンのリストアウィザードの画面 30
[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面 31
[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面 32
[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面 33
[リストアオプション (Restore Options)]画面 34
[設定の確認 (Review Settings)]画面 37
リカバリジョブの状態を調べる 38

第 4 章 トラブルシューティング 41

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて 41
SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示 42
SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更 44
NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される 44

1

概要およびメモ

この章では以下の項目について説明しています。

- システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドインについて (SCVMM)
- SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項
- NetBackup 8.0 についての本ガイドの更新

システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドインについて (SCVMM)

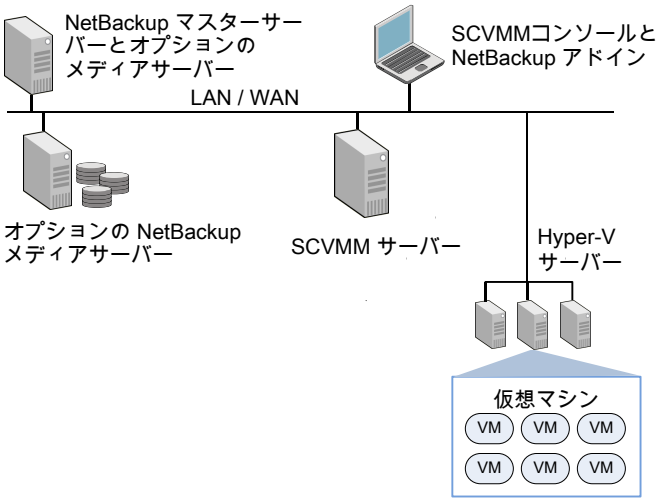
Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) 用 NetBackup アドインを利用して、NetBackup バックアップイメージから仮想マシンをリカバリできます。

SCVMM コンソールでアドインを使うと次のことができます。

- 元の場所か代替の場所に完全な仮想マシンをリカバリします。
- アドインで開始されたリカバリジョブの進捗状況を監視します。

図 1-1は NetBackup サーバーおよび NetBackup アドインを実装した SCVMM 環境を示しています。

図 1-1 NetBackup アドインを実装した NetBackup および SCVMM 環境



SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項

NetBackup アドインについては次の点に注意してください。

- SCVMM 用 NetBackup アドインのリリースでは、仮想マシンのバックアップの監視、仮想マシンバックアップからの個々のファイルのリストア、ステージング場所への仮想マシンのリストアはサポートしません。
  p.28 の「リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項」を参照してください。
- NetBackup アドインを使うには、管理者ロールで SCVMM コンソールにログオンする必要があります。異なる役割でログオンすると、アドイン機能は無効になります。
- NetBackup アドインを使うすべてのユーザーは NetBackup アドインをインストールする必要があります。
  p.29 の「リカバリウィザードへのアクセス」を参照してください。
- SCVMM 用の NetBackup アドインの今後のバージョンでは、サードパーティアドインに対する Microsoft 社の制限により、NetBackup アドインはその既存バージョンへのアップグレードをサポートしません。アドインの新しいリリースが利用できるようになったときに、現在のバージョンをアンインストールする必要があります。

メモ: アドインを再インストールせずに SCVMM をアップグレードできます。

NetBackup 8.0 についての本ガイドの更新

このガイドには次の変更が加えられています。

- NetBackup マスターサーバーでの Web サービスの有効化と Web ポートの構成に関する手順が削除されました。8.0 以降の NetBackup マスターサーバーをインストールすると、Web サービスが自動的に有効化されます。
  マスターサーバーをインストールする前に実行する必要がある Web サーバータスクについては、次の TechNote を参照してください。
  https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081350

メモ: NetBackup マスターサーバーが 8.0 より前のバージョンである場合、Web サービスの有効化の手順については、このガイドの旧バージョンを参照してください。

http://www.veritas.com/docs/DOC5332

2

NetBackup Add-in for SCVMM のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件
- NetBackup Add-in for SCVMM のインストール
- インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)
- ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ
- SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール

SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件

サポート対象の NetBackup バージョンと SCVMM バージョンのリストについては、次の場所で入手可能な NetBackup ソフトウェア互換性リスト (SCL) を参照してください。

NetBackup Master Compatibility List

NetBackup Add-in for SCVMM のインストール

このトピックでは、インストールファイルの取得方法と SCVMM 用 NetBackup アドインのインストール方法について説明します。

表 2-1 SCVMMの 用 NetBackup アドイン: インストールの必要条件

要件	注意事項
NetBackup アドインのインストールファイル	次の場所からインストールファイル NetBackup_8.0_Plugins.zip をダウンロードできます。 https://my.veritas.com/
SCVMM コンソールホスト	SCVMM コンソールホストまたは別の Windows ホストにインストール用 .zip ファイルをダウンロードします。 **メモ:** Windows ホストは SCVMM サーバーにネットワーク接続できる必要があります。
SCVMM サーバーとそのクレデンシャル	アドインをインストールしている場合は、SCVMM コンソールで実行されます。 アドインのインストールを完了するには、次の情報が必要です。 ■ 各 SCVMM サーバーのホスト名または IP アドレス ■ 各 SCVMM サーバーのユーザー名とパスワード ■ 各 SCVMM サーバーのポート番号 (デフォルトは 443 番)
追加のユーザーアクセス	次の状況ではユーザーアクセスの追加が必要になることがあります。 ■ SCVMM コンソールホストでユーザーアカウント制御が有効になっている ■ アドインをインストールするユーザーが System Center をインストールしたユーザーではない p.15 の「インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」を参照してください。

SCVMM 用 NetBackup アドインをインストールするには

1 Licensing Portal の新しいユーザーの場合は、MyVeritas アカウントを取得する方法について、勤務先の管理者またはベリタスのカスタマケアに問い合わせてください。

https://my.veritas.com/

電子メールでの問い合わせ先は次のとおりです。

CustomerCare@veritas.com

2 MyVeritas の Web サイトで、MyVeritas アカウントを使ってログオンします。

3 [Licensing]で、資格 ID を使用して NetBackup プラグインを特定し、NetBackup_8.0_Plugins.zip ファイルを SCVMM コンソールホストにダウンロードします。

Veritas Licensing Portal の使用方法について詳しくは、次の MyVeritas に関するガイドを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000001129

4 ダウンロードした NetBackup_8.0_Plugins.zip ファイルを解凍し、VRTSNBUAddIn.zip ファイルを見つけます。

VRTSNBUAddIn.zip ファイルへのパスは次のとおりです。

¥NB_8.0_Plugins¥NBscvmmAddIn¥NetBackup_scvmmAddIn_Win¥VRTSNBUAddIn.zip

---

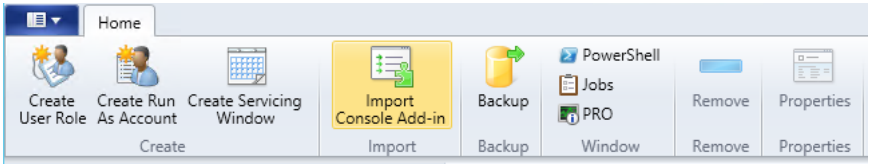
メモ: VRTSNBUAddIn.zip ファイルを解凍しないでください。その zip ファイルは、アドインのインストールで必要になります。

ダウンロードした NetBackup_8.0_Plugins.zip ファイルには、そのほかの NetBackup プラグインの zip ファイルも含まれています。それらのファイルは SCVMM 用の NetBackup アドインには不要です。

5 SCVMM コンソールを起動し、SCVMM サーバーに接続します。

サーバーのホスト名または IP アドレスとそのログオンクレデンシャルが必要です。

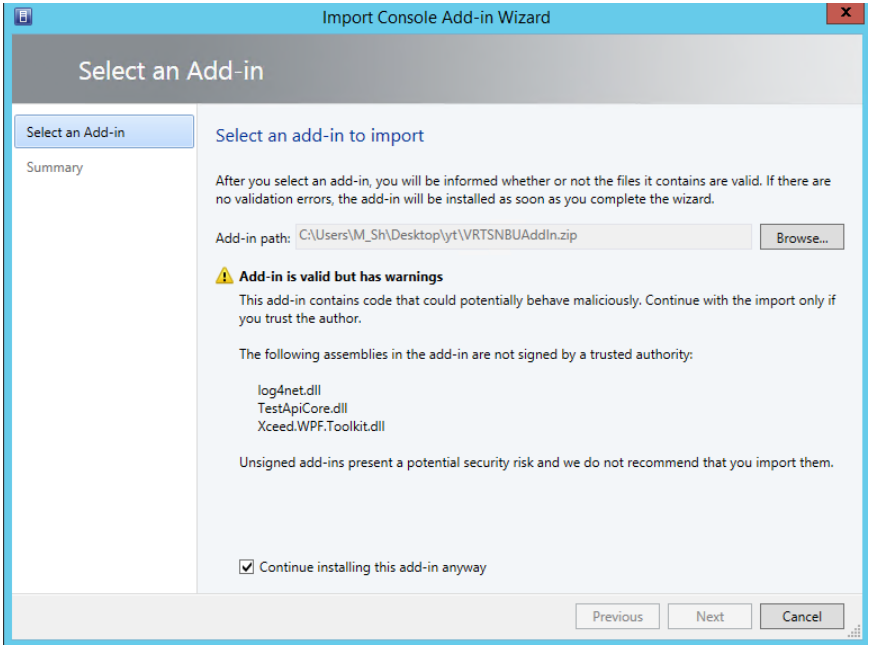
6 SCVMM コンソールで、[設定 (Settings)]ワークスペースを開いて SCVMM リボンの[コンソールアドインのインポート (Import Console Add-in)]オプションをクリックします。



[コンソールアドインのインポートウィザード (Import Console Add-in Wizard)]が表示されます。

7 [アドインの選択 (Select an Add-in)]画面で、[参照 (Browse)]をクリックし、VRTSNBUAddIn.zip ファイルを見つけます。

複数の警告が表示されます。これらの警告は無視しても問題ありません。



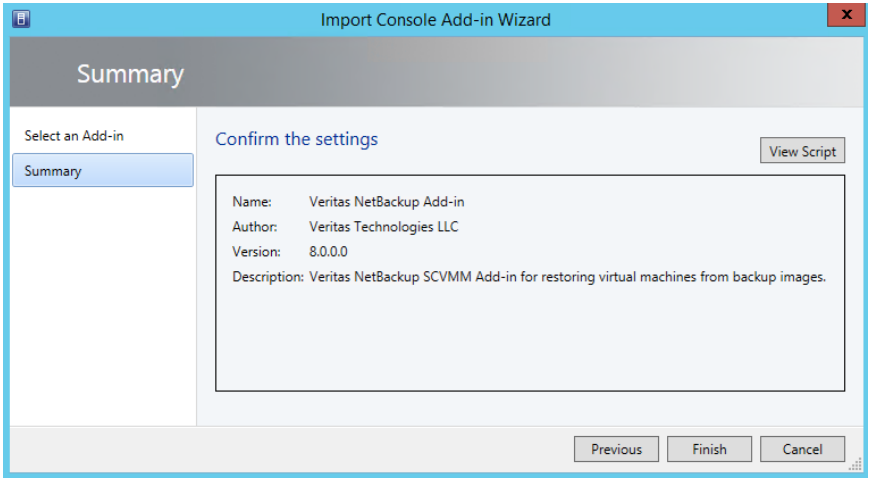
8 [このアドインのインストールを続行する (Continue installing this add-in anyway)]をクリックします。

[コンソールアドインのインポートウィザード (Import Console Add-in Wizard)]に「アドインをインストールできません」と表示された場合は、ユーザーアクセスの追加が必要なこともあります。

p.15 の「インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」を参照してください。

必要なユーザーアクセス権を所有している場合は、NetBackup アドインのファイルを再び参照して (ステップ 7) 、このインストール手順を続行します。

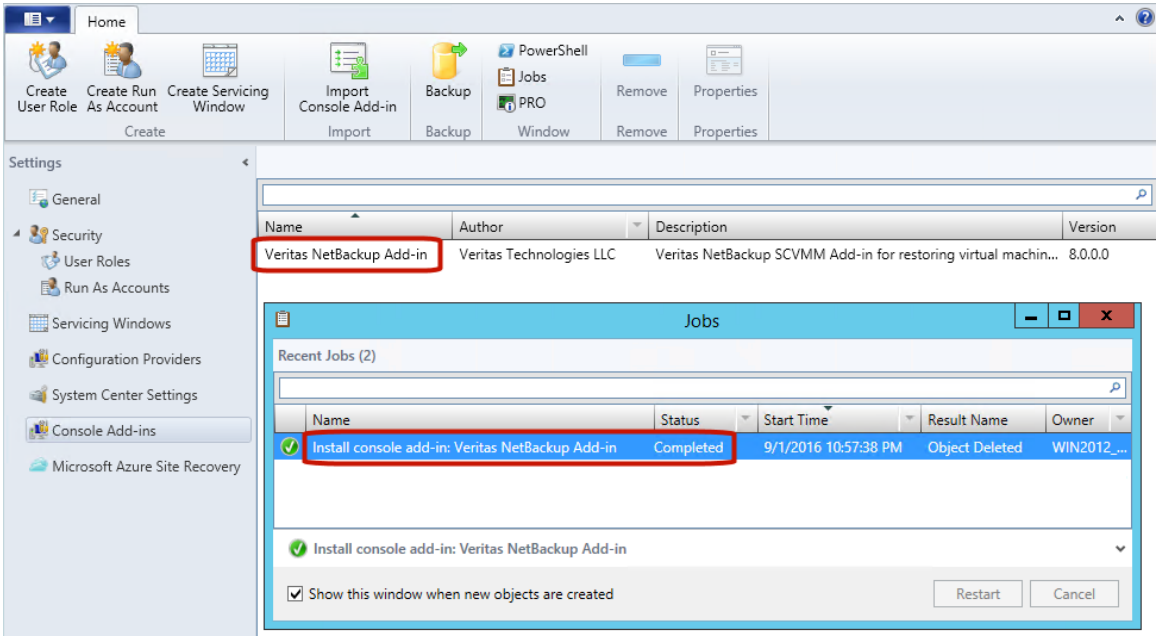
9 [概略 (Summary)]画面で[完了 (Finish)]をクリックします。



英語以外のシステムロケールの Windows ホストに NetBackup アドインをインストールすると、インストールが完了したときに SCVMM にメッセージが表示されることがあります。

p.18 の「ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ」を参照してください。

インポートしたアドインが SCVMM コンソールの[ジョブ (Jobs)]ウィンドウと、[設定 (Setting)]ワークスペースの[コンソールアドイン (Console Add-ins)]に表示されます。



10 自分自身のクレデンシャルを使ってSCVMMコンソールにログインした場合は、メッセージが表示されたら SCVMM コンソールを再起動します。

メモ: [現在の Microsoft Windows セッションの ID を使用する (Use current Microsoft Windows session identity)]オプションを選択した場合は、再起動は不要です。

メモ: NetBackup アドインを使うには、管理者ロールで SCVMM コンソールにログオンする必要があります。異なるロールで SCVMM にログオンすると、アドイン機能は無効になります。

メモ: NetBackup アドインを初めて使うときに、エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) が表示されます。アドインを使うには、EULA に同意する必要があります。

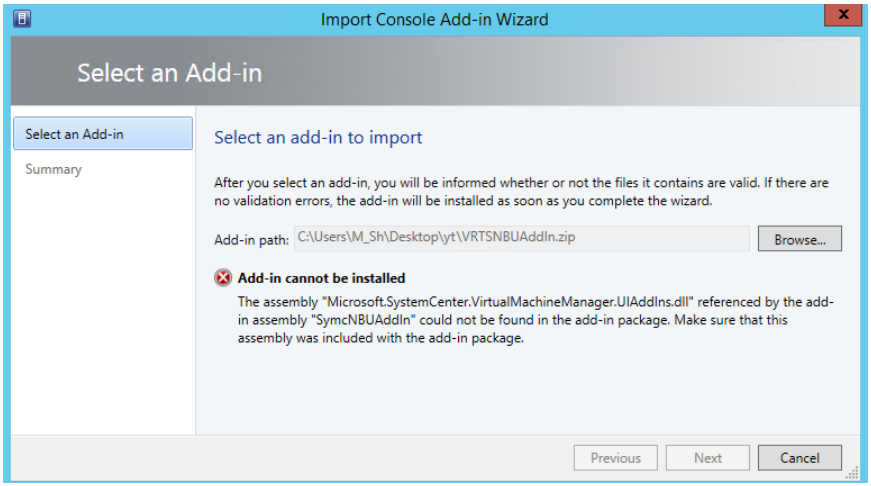
インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)

ユーザー権限が足りないと、SCVMM 対応 NetBackup アドインのインストール中、「アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」エラーが発生することがあります。

たとえば、このエラーは次のような状況で発生します。

- ユーザーアカウント制御が SCVMM コンソールホストで有効になっている。
- SCVMM コンソールでアドインをインストールしているユーザーが System Center をインストールしたユーザーではない。

アドインのインストール中、次のメッセージが表示されます。

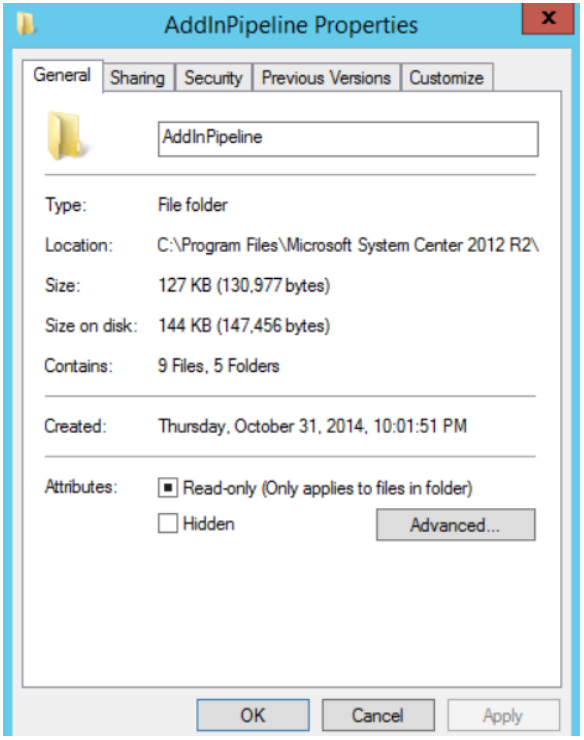


SCVMM コンソールホスト上ですべての認証済みユーザーにインストール権限を付与する方法

1 SCVMM コンソールホスト上で、次の場所まで移動します。

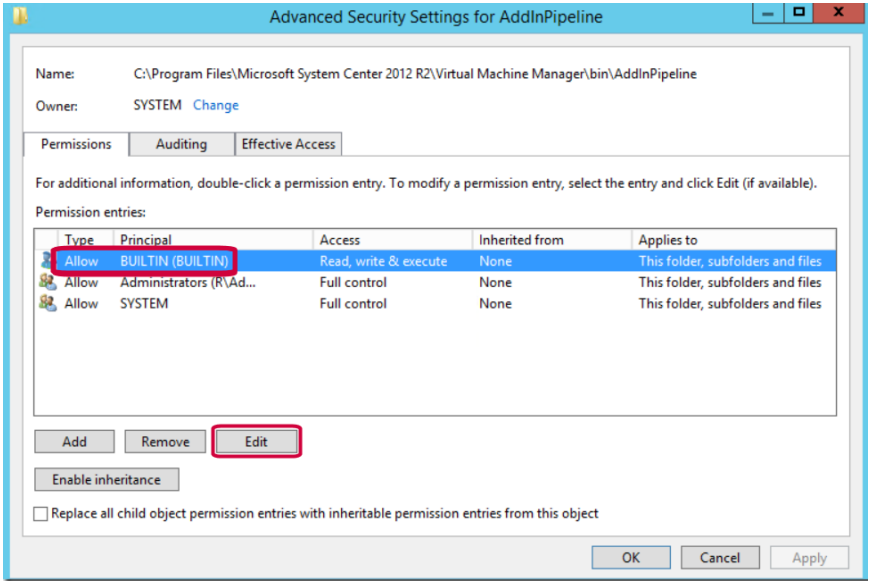
```
C:¥Program Files¥Microsoft System Center 2012¥Virtual Machine Manager¥bin
```

2 `AddInPipeline` フォルダを右クリックし、[プロパティ (Properties)]をクリックします。

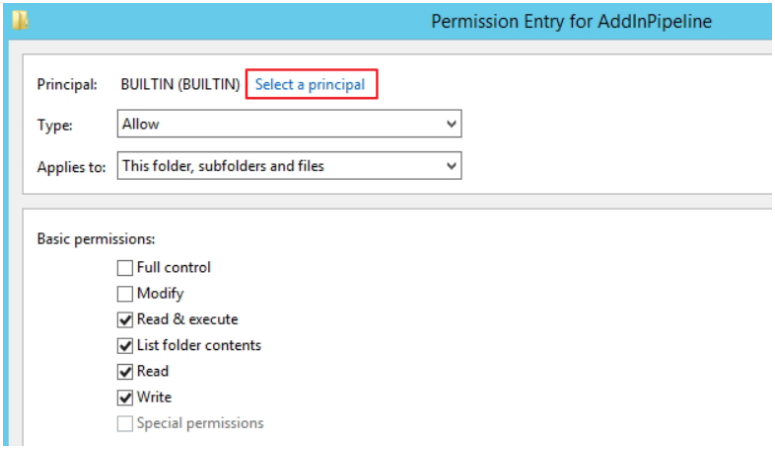


3 [セキュリティ (Security)]タブの[詳細 (Advanced)]をクリックし、[続行 (Continue)]をクリックします。

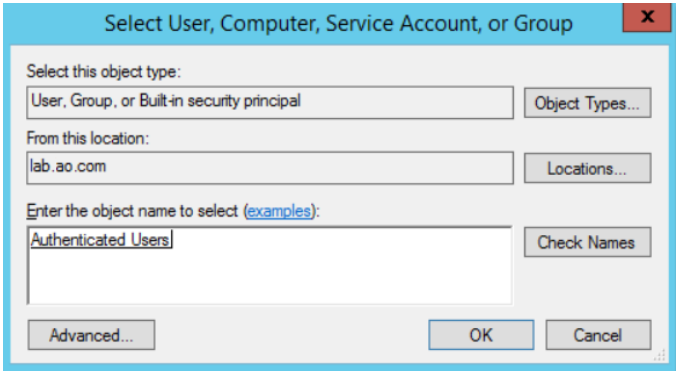
4 BUILTIN グループを選択し、[編集 (Edit)]をクリックします。



5 [プリンシパルの選択 (Select a principal)]をクリックします。



6 ［認証済みユーザー (Authenticated Users)］と入力し、［OK］をクリックします。



7 各プロパティダイアログボックスを閉じるには、［OK］をクリックします。

次の Microsoft 社の記事に、この問題の詳細情報が記載されています。

http://support.microsoft.com/kb/2904712

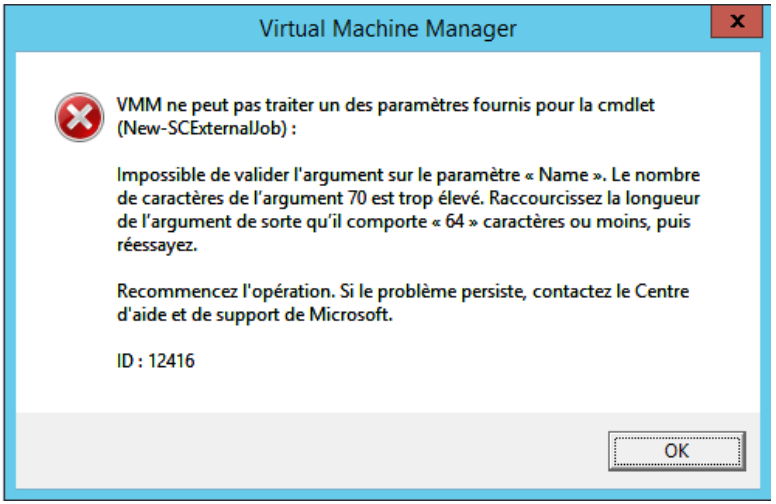
8 SCVMM 対応 NetBackup アドインをインストールするには:

p.9 の「NetBackup Add-in for SCVMM のインストール」を参照してください。

ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ

英語以外のシステムロケールの Windows ホストに NetBackup アドインをインストールすると、インストールが完了したときに SCVMM にメッセージが表示されることがあります。これは、引数が 65 文字以上であるため、これを検証できないことを伝えるメッセージです。このエラーは、選択されたロケールに依存するアドイン名の長さに関する Microsoft 社の制限事項に起因します。

例: 次は、Windows がフランスのシステムロケールに設定されている場合に表示されます。

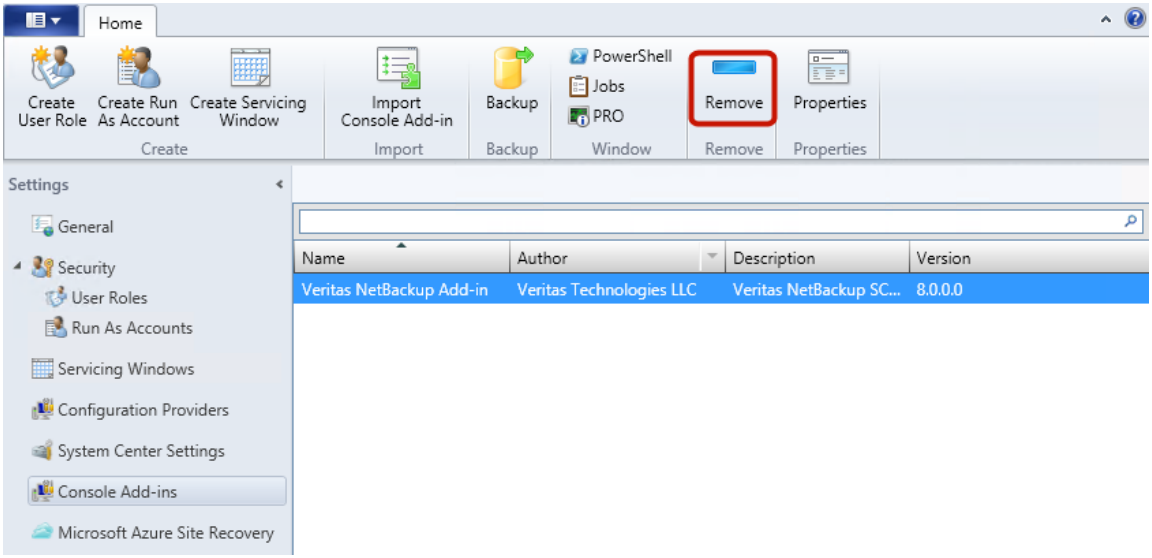


メモ: このメッセージは無視できます。アドインは正しくインストールされています。

SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール

SCVMM 用 NetBackup アドインをアンインストールするには

1. SCVMM コンソールで、[設定 (Settings)]ワークスペースを開きます。
2. [コンソールアドイン (Console Add-ins)]ノードで、Veritas NetBackup アドインをクリックしてから[削除 (Remove)]をクリックします。



3. 削除を確認するように求められたら、[はい (Yes)]をクリックします。

   アンインストールされたことが SCVMM コンソールの[ジョブ (Jobs)]ウィンドウに示されます。

3

仮想マシンのリカバリ

この章では以下の項目について説明しています。

- NetBackup リカバリウィザードの設定
- リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項
- リカバリウィザードへのアクセス
- 仮想マシンのリストアウィザードの画面
- リカバリジョブの状態を調べる

NetBackup リカバリウィザードの設定

仮想マシンをリストアするために NetBackup リカバリウィザードを使用するには、次のように設定します。

表 3-1 NetBackup リカバリウィザードの設定

手順	説明	参照トピック
1	認証トークンファイルを作成します。	p.21 の「SCVMM 用 NetBackup アドインのための認証トークンの作成」を参照してください。
2	NetBackup アドインを承認して仮想マシンをリストアします。	p.24 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。

SCVMM 用 NetBackup アドインのための認証トークンの作成

アドインに仮想マシンのリストアを許可するには、NetBackup マスターサーバーで認証トークン (またはマスターサーバーとしての NetBackup アプライアンスで証明書) を生成する必要があります。

NetBackup マスターサーバーで認証トークンを作成するには

1 マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat
-create SCVMM_console_host
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/openv/wmc/bin/install/manageClientCerts -create
SCVMM_console_host
```

SCVMM_console_host はアドインをインストールしているホストの完全修飾ドメイン名です。`manageClientCerts` コマンドは認証トークンを含んでいる圧縮ファイルの場所を返します。

メモ: Windows のファイルとディレクトリの命名規則に違反する文字(アスタリスク(*)など)を使って認証トークンファイルを作成したり、名前変更を行わないでください。トークンファイルの名前が Windows の予約文字を含む場合は、アドインがマスターサーバーのバックアップから VM をリストアするための認証を受けることができません。Windows の命名規則について詳しくは、次の Microsoft の記事を参照してください。「Naming Files, Paths, and Namespaces」

---

2 SCVMM サーバー管理者に圧縮認証トークンファイルを提供します。

注意: 圧縮ファイルの共有や送信には、必ず安全な方法を使用してください。

マスターサーバートークンを使うと、仮想マシンをリストアするためにプラグインを認証できます。

p.24 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。

マスターサーバーとして、NetBackup アプライアンスで認証トークン (証明書) を作成するには

1 証明書を生成するには、次の場所で入手可能な『NetBackup Appliance 管理者ガイド』内の「管理 > 証明書」トピックを参照してください。

http://www.veritas.com/docs/000002217

2 SCVMM 管理者に証明書の圧縮ファイルを提供してください。

注意: 圧縮ファイルの共有や送信には、必ず安全な方法を使用してください。

マスターサーバー証明書を使うと、仮想マシンをリストアするためにアドインを認証できます。

p.24 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。

認証トークンの取り消し

次のように、マスターサーバーの認証トークンを削除または取り消すことができます。

認証トークンを取り消すには

1 マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat
-delete SCVMM_console_host
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/openv/wmc/bin/install/manageClientCerts -delete
SCVMM_console_host
```

この *SCVMM_console_host* はアドインをインストールしているホストの完全修飾ドメイン名です。

`-delete` オプションは、マスターサーバーから認証トークンとその圧縮ファイルを削除します。このマスターサーバーが作成したバックアップから仮想マシンをリストアする権限がアドインからなくなります。

2 このマスターサーバーをリストアするアドインを再認証するには、新しいトークンを作成して必要に応じて SCVMM コンソールでマスターサーバーを再追加します。

p.21 の「SCVMM 用 NetBackup アドインのための認証トークンの作成」を参照してください。

p.24 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。

すべての現在の認証トークンのリスト

現在使用中のすべてのマスターサーバーの認証トークンをリストできます。

すべての現在の認証トークンをリストするには

◆ マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat -list
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/openv/wmc/bin/install/manageClientCerts -list
```

次に出力例を示します。

```
Client                Expiry Date


SCVMM_console_host_1      Thu Feb 06 16:16:51 GMT+05:30 2016
SCVMM_console_host_2      Fri Feb 07 11:22:53 GMT+05:30 2016
```

このコマンドはトークンを作成した SCVMM コンソールホストとその有効期限を表示します。この情報は、証明書が期限切れになったときに SCVMM コンソールホストとマスターサーバー間で起きる通信の問題の診断に役立ちます。

- 書式付きで出力する場合は、コマンドプロンプトまたはシェルの画面サイズを 100 単位以上に設定します。
- 40 文字を超えるサーバー名は切り捨てられ、先頭から 40 文字を超える文字が "..." に置換されます。

NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する

NetBackup マスターサーバーは、仮想マシンのバックアップを開始、制御します。仮想マシンのリストアにアドインを使うには、マスターサーバー認証トークンを NetBackup 管理者から入手する必要があります。トークンを入手したら、アドインを承認することでマスターサーバーによってバックアップされた仮想マシンをリストアできます。

アドインで仮想マシンをリストアすることを承認 (または、承認を編集、削除) するには

1 NetBackup 管理者に認証トークンファイルを提供するように依頼します。

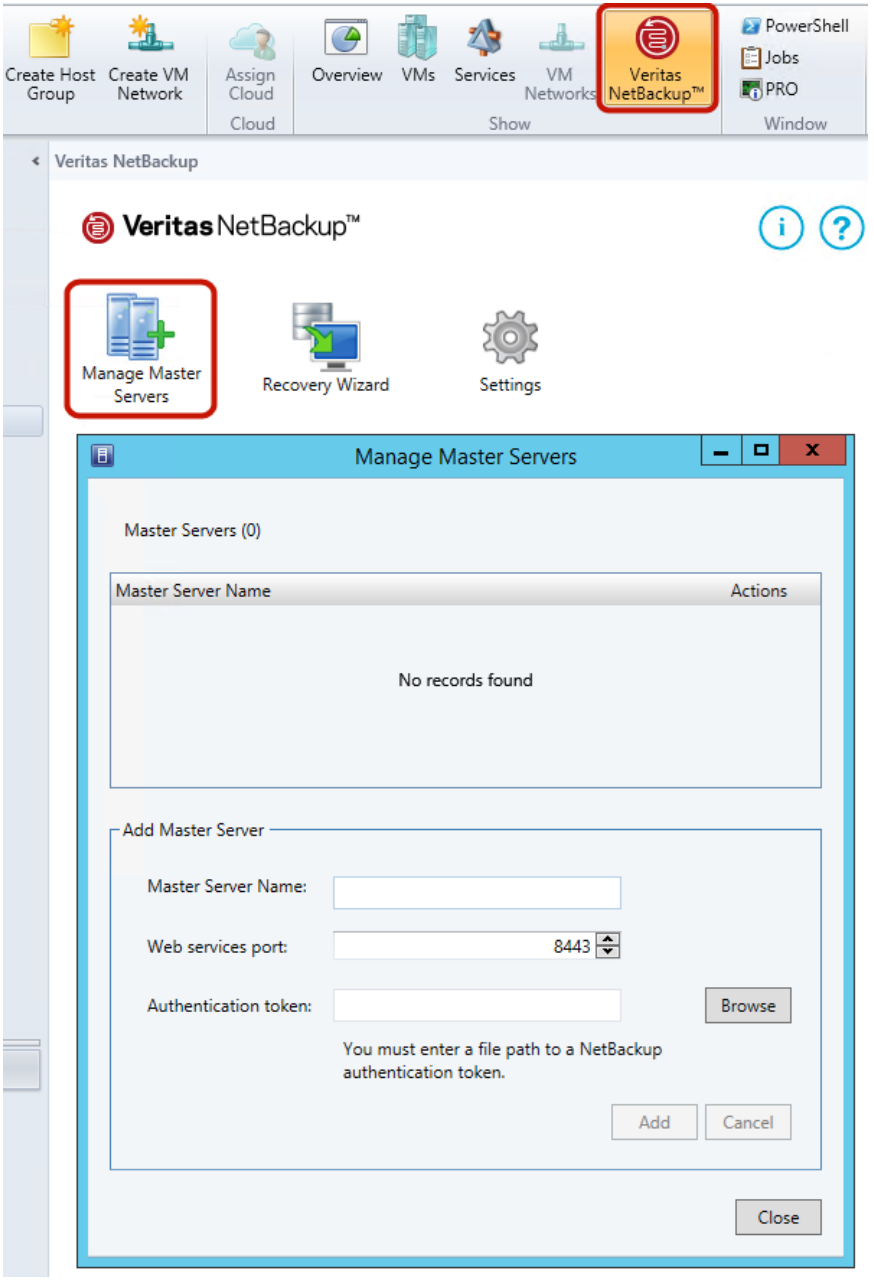
p.21 の「SCVMM 用 NetBackup アドインのための認証トークンの作成」を参照してください。

2 SCVMM コンソールを起動するコンピュータまたはノートパソコンに認証トークンファイルをコピーします。

場所を書き留め ておきます。

3 SCVMM コンソールのリボンで、[NetBackup]オプションをクリックします。

4 [マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)]をクリックします。



5 [マスターサーバーの追加 (Add Master Server)]で次の項目を入力して NetBackup マスターサーバーと認証トークンを指定します。

マスターサーバーの追加 (Add Master Server)

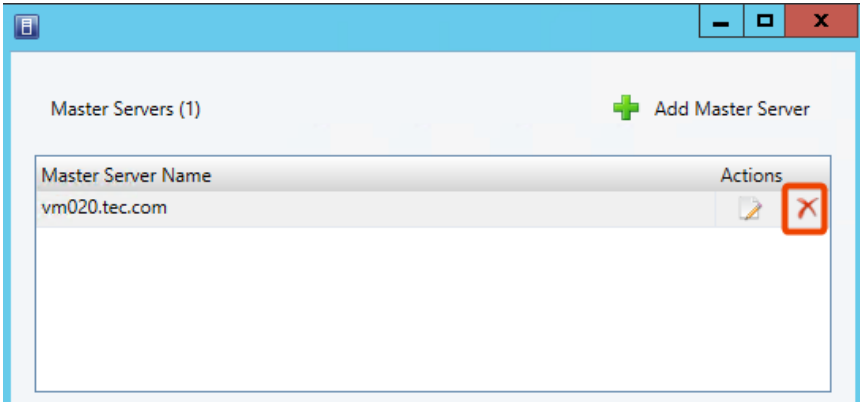
- Master Server Name
  マスターサーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
- Web サービスポート (Web services port)
  NetBackupの管理者がポートを変更していない場合は、デフォルト(8443)を受け入れてください。ポートが変更されている場合は、正しいポート番号を管理者に問い合せてください。
- 認証トークン (Authentication token)
  [参照 (Browse)]をクリックし、NetBackup 管理者が提供した認証トークンファイルを選択します。
  [追加 (Add)]をクリックします。アドインが通信できるマスターサーバーのリストにサーバーが追加されます。

6 SCVMM コンソールがマスターサーバーと通信できることを検証するには、[状態の確認 (Check Status)]をクリックします。

正常に通信している場合は、[接続の状態 (Connection Status)]フィールドに[接続済み (Connected)]と表示されます。

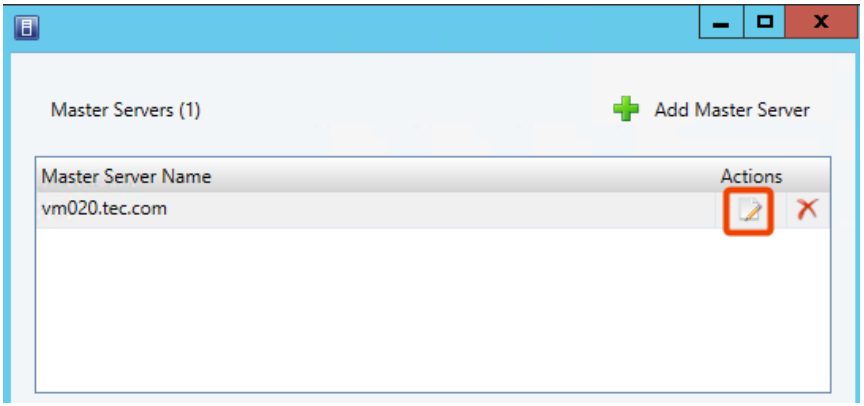
7 他のマスターサーバーとその認証トークンを追加するには、右上にある[マスターサーバーの追加 (Add Master Server)]をクリックしてステップ 5 と 6 を繰り返します。

8 承認を削除するには、マスターサーバー名の隣にある削除アイコンをクリックします。

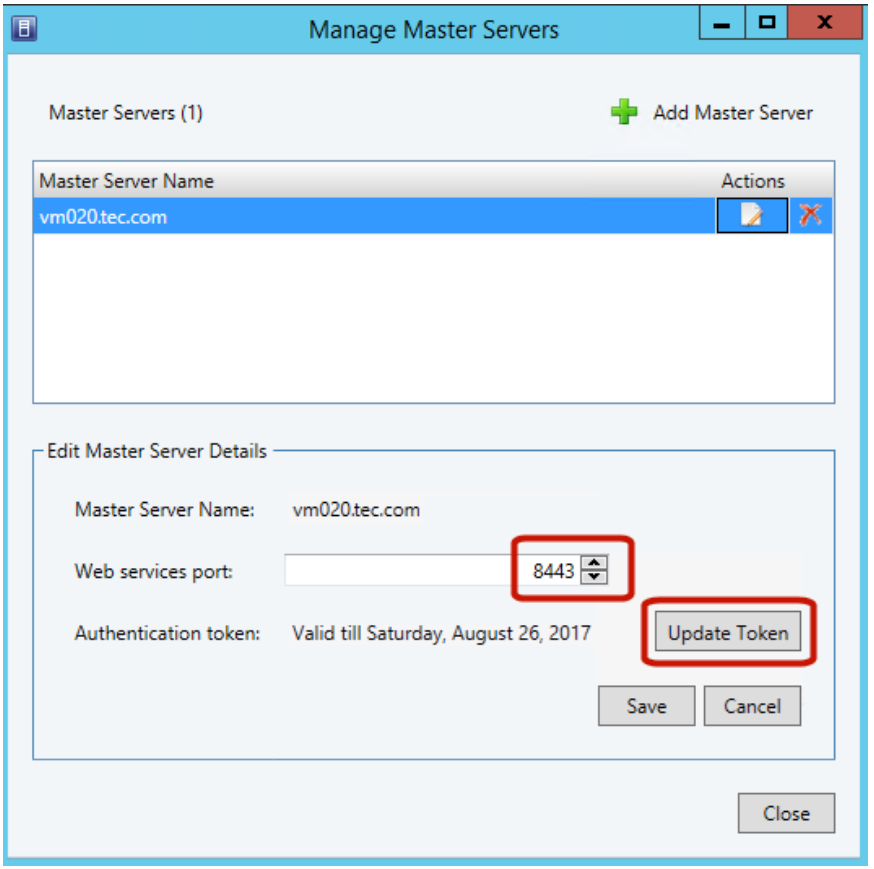


承認を削除すると、アドインはマスターサーバーが実行したバックアップからリストアできません。

9 承認を編集するには、マスターサーバー名の反対側にある編集アイコンをクリックします。



異なる Web サービスポートを入力することも、[トークンの更新 (Update Token)]をクリックして異なる認証トークンを選択することもできます。



10 ［保存 (Save)］をクリックします。

11 ［閉じる (Close)］をクリックします。

リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項

NetBackup イメージから仮想マシンをリストアするには、SCVMM コンソールの NetBackup リカバリウィザードを使います。

NetBackup アドインリカバリウィザードについては、次の点に注意してください。

- NetBackup リカバリウィザードは仮想マシン全体をリストアするもので、個別ファイルのリストアには使えません。仮想マシンのバックアップから個々のファイルをリストアす

るには、NetBackup のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースを使います。
『NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド』で個々のファイルのリストアに関するトピックを参照してください。

- NetBackup リカバリウィザードはステージング場所に対するリストアをサポートしません。ステージング場所に仮想マシンをリストアするには、NetBackup のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースを使います。
- Hyper-V マネージャを使って個々の Hyper-V ホストまたはクラスタに対して行った変更は、SCVMM コンソールに反映されるまで最大で 24 時間かかる場合があります。それまでは、NetBackup アドインリカバリウィザードには最新の仮想マシン構成状態が反映されていません。その場合、リカバリウィザードの VM の場所に関連するリカバリ前チェックは、SCVMM の最新データに基づいていない場合があります。リカバリウィザードで異なる選択を実行しなければならない場合があります。
p.44 の「NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される」を参照してください。
- NetBackup 8.0 管理コンソールには、仮想マシンをリストアするための次の拡張機能が追加されました。
  - 代替の場所に仮想マシンをリストアする際に、新しい VM GUID がデフォルトで生成されます。
  - 仮想マシンをリストアする際に、新しい仮想マシンの表示名を指定できます。

メモ: NetBackup リカバリウィザードは、これらのリストアのための拡張機能をサポートしません。NetBackup 管理コンソールまたは nbrestorevm コマンドを使用して、仮想マシンをリストアするときに新しい GUID を生成するか、または新しい表示名を設定します。

- リカバリウィザードを使用する前提条件:
p.21 の「NetBackup リカバリウィザードの設定」を参照してください。

リカバリウィザードへのアクセス

このトピックで説明しているように、SCVMM コンソールで NetBackup アドインからリカバリウィザードを起動できます。

メモ: アドインにアクセスするには、自分でアドインをインストールする必要があります。アドインをインストールしていない場合は、[NetBackup]オプションが SCVMM リボンに表示されません。

リカバリウィザードにアクセスするには

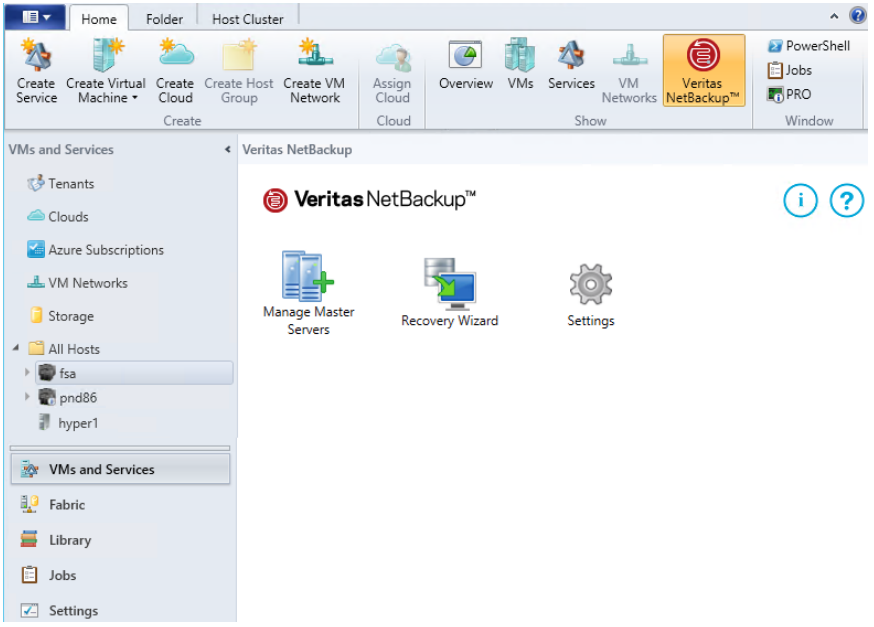
1 SCVMM コンソールで、[VM とサービス (VMs and Services)]ワークスペースを開きます。

2 [すべてのホスト (All Hosts)]をクリックします。

3 SCVMM リボンで、[NetBackup]オプションをクリックします。

NetBackup アドインを初めて使うときに、エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) が表示されます。アドインを使うには、EULA に同意する必要があります。

NetBackup アドインのコンポーネントが表示されます。



4 [リカバリウィザード (Recovery Wizard)]をクリックします。

[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面が表示されます。

p.31 の「[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面」を参照してください。

仮想マシンのリストアウィザードの画面

NetBackup アドインで次の画面を使って Hyper-V 仮想マシンをリストアします。

[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面

この画面で、リストアする仮想マシンを指定します。

図 3-1 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面

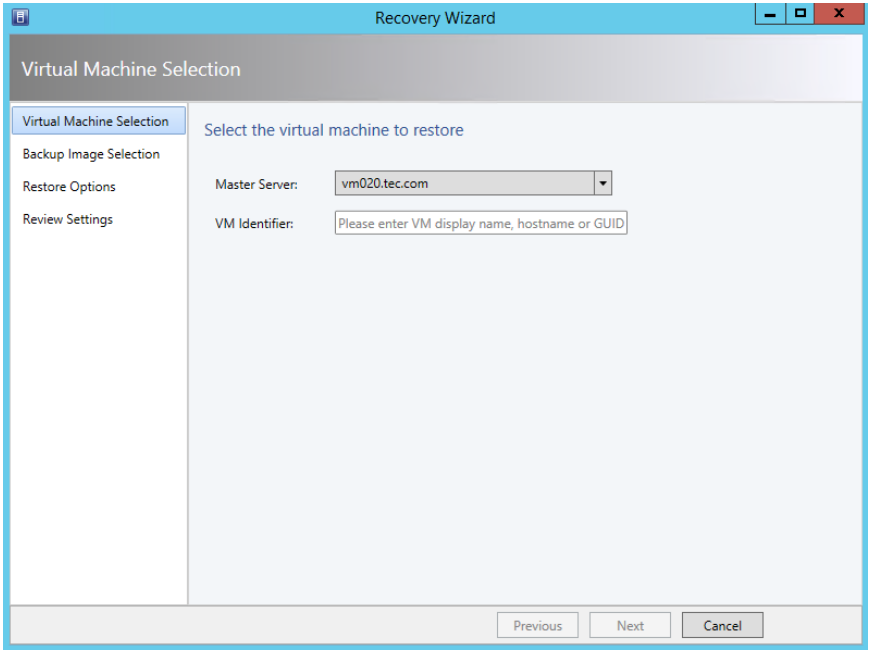


表 3-2 NetBackup リカバリウィザードの[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面のフィールド

フィールド	説明
マスターサーバー (Master Server)	ドロップダウンリストを使用して、バックアップを作成したマスターサーバーを選択します。 マスターサーバーがドロップダウンリストにない場合は、マスターサーバーリストにサーバーを追加する必要があります。 p.24 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。
VM 識別子 (VM Identifier)	リストアする仮想マシンの表示名、ホスト名、GUID のいずれかを入力します。 **メモ:** このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。

フィールド	説明
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面

この画面で仮想マシンをリストアするために使うバックアップイメージを選択します。

図 3-2 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面

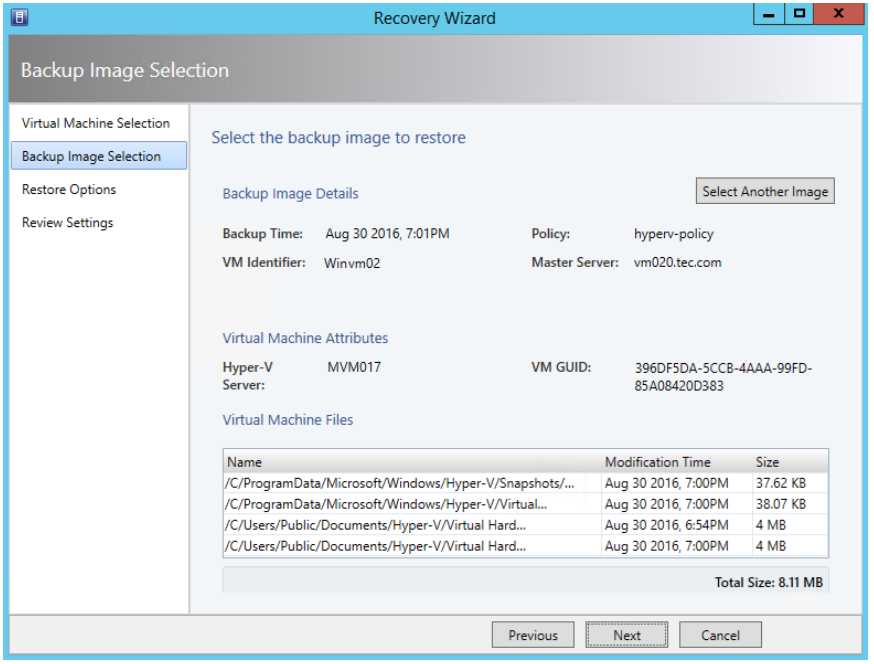


表 3-3 [バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面のフィールド

フィールド	説明
バックアップイメージの属性 (Backup Image Attributes)	仮想マシンのバックアップイメージに関する情報を表示します。 デフォルトでは、最近のバックアップイメージが表示されます。

フィールド	説明
別のイメージの選択 (Select Another Image)	別のバックアップイメージを選択する場合は、このオプションをクリックします。次のトピックの表を参照してください。 p.33 の「[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面」を参照してください。
仮想マシン属性 (Virtual Machine Attributes)	仮想マシンのバックアップ時の情報を表示します。
仮想マシンファイル (Virtual Machine Files)	仮想マシンのイメージに含まれているファイルを表示します。 **メモ:** パス全体を参照するには、[名前 (Name)]列の境界線を右方向にドラッグするか、または行の上にカーソルを置いてツールのヒントを表示します。
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面

[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面でバックアップイメージを見つけて下部ペインでイメージを選択し、[選択 (Select)]をクリックします。選択したイメージの仮想マシンファイルが[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面に表示されます。

図 3-3 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面

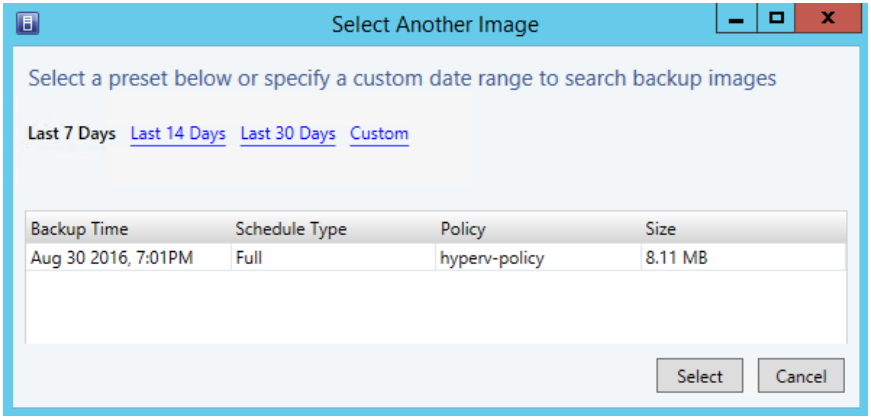


表 3-4 ［別のイメージの選択 (Select Another Image)］画面のフィールド

フィールド	説明
過去 7 日間 (Last 7 Days) 過去 14 日間 (Last 7 Days) 過去 30 日間 (Last 7 Days) Custom	先週、過去 2 週間、先月、指定した期間内のいずれかに作成したバックアップイメージを表示します。 ［カスタム (Custom)］をクリックして期間を選択します。プルダウン矢印を使って別の日付を選択して［検索 (Search)］をクリックします。検索日付範囲内のイメージが表示されます。 イメージを選択して［選択 (Select)］をクリックします。

［リストアオプション (Restore Options)］画面

この画面で、リストアする仮想マシンのリストア先オプションを指定します。

図 3-4 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの［リストアオプション (Restore Options)］画面

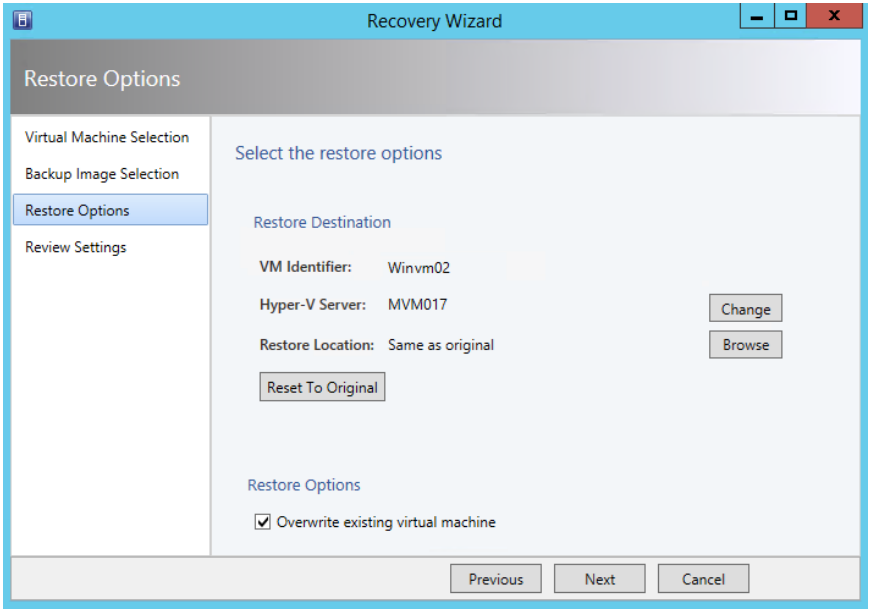
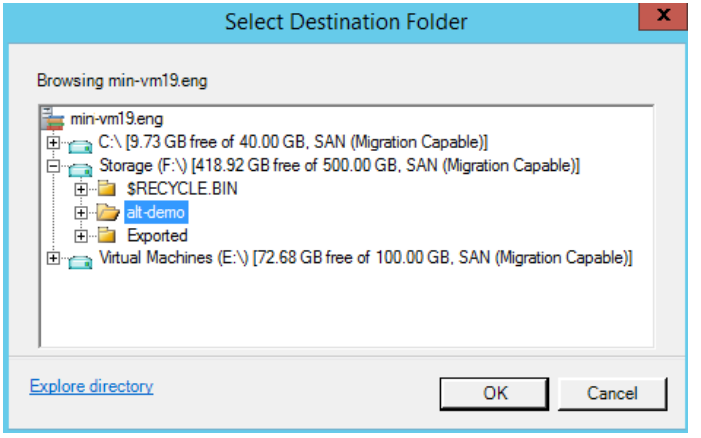


表 3-5 ［リストアオプション (Restore Options)］画面のフィールド

フィールド	説明
****Restore Destination****	リストア先の詳細を表示します。
VM 識別子 (VM Identifier)	リストアする仮想マシンの表示名またはその他の識別子。
Hyper-V サーバー (Hyper-V server)	仮想マシンをリストアする Hyper-V サーバー。デフォルトは元のサーバーです。 仮想マシンを別の Hyper-V サーバーにリストアするには、［変更 (Change)］をクリックしてプルダウンで異なるサーバーを選択します。 プルダウンリストには SCVMM サーバーが管理する Hyper-V サーバーが表示されます。

フィールド	説明
リストア場所 (Restore Location)	仮想マシンのリストア先ディレクトリ。デフォルトは元のディレクトリです。 別のリストアディレクトリを選択する場合は、[参照 (Browse)]をクリックしてディレクトリを選択します。  **メモ:** リストア場所として新しいディレクトリを作成する場合は、[リストア先フォルダの選択 (Select Destination Folder)]ダイアログの下部にある[ディレクトリのエクスプローラ (Explore directory)]リンクをクリックします。管理者権限が必要な場合もあります。 **メモ:** ディレクトリを参照するときに、Microsoft RemoteFileBrowserDialog ウィジェットで、ボリューム文字ではなく GUID を持つダイナミックボリュームが表示される場合があります。継続的に、GUID 識別のボリュームでフォルダを選択することもできます。この問題については、次の Microsoft 社の記事を参照してください。 「Using Dynamic Disks to host virtual machine files in Virtual Machine Manager」
元に戻す (Reset to Original)	リストア場所を元の Hyper-V サーバーと元のディレクトリに戻します。
リストアオプション (Restore Options)	リストアオプションを表示します。
既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)	同じ表示名を持つ仮想マシンが宛先にある場合、リストアが始まる前にその仮想マシンを削除する必要があります。それ以外の場合、リストアは失敗します。 既存の仮想マシンを削除する場合はこのオプションを選択します。

フィールド	説明
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[設定の確認 (Review Settings)]画面

この画面で、リカバリに使う設定を確認してリカバリを開始します。

図 3-5 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの[設定の確認 (Review Settings)]画面

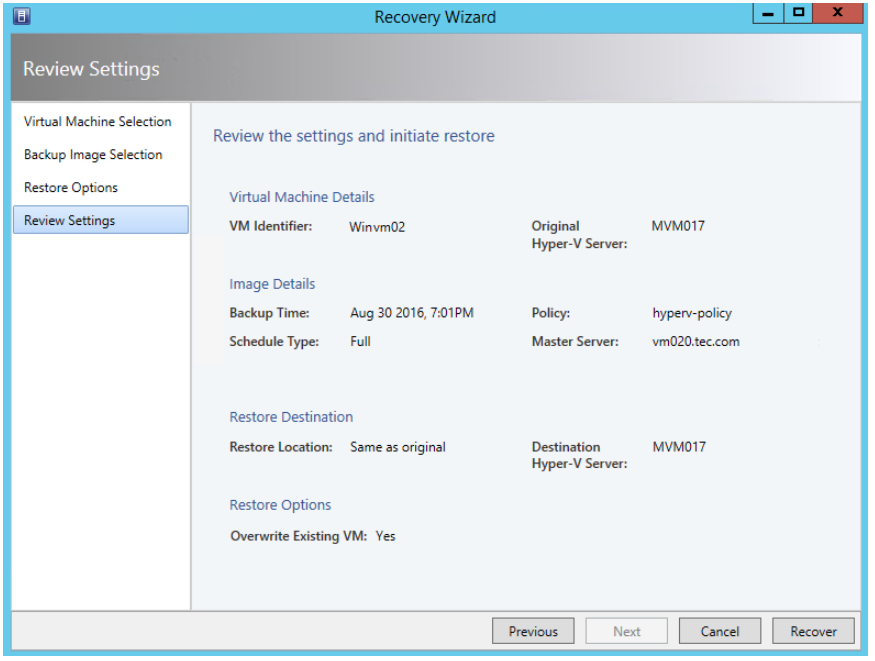


表 3-6 [設定の確認 (Review Settings)]画面のフィールド

フィールド	説明
仮想マシンの詳細 (Virtual Machine Details)	リストアするように選択した仮想マシンの詳細を表示します。
イメージの詳細 (Image Details)	仮想マシンのリストア元バックアップイメージの詳細を表示します。

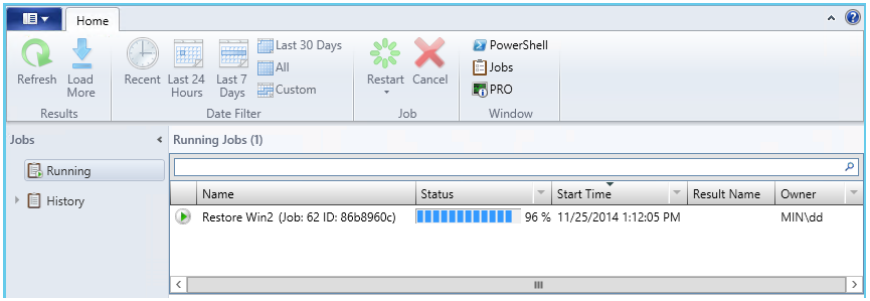
フィールド	説明
****Restore Destination****	リストア先の詳細を表示します。
リストアオプション (Restore Options)	リストアオプションを表示します。
リカバリ (Recover)	リカバリ前チェックを実行して、対象を検証します。チェックが正常に完了すると、リカバリが開始されます。 [リカバリ (Recover)]をクリックすると、ポップアップにリカバリジョブのジョブ ID が表示されます。次のトピックではリカバリの状態を調べる方法を説明します。 p.38 の「リカバリジョブの状態を調べる」を参照してください。 **メモ:** VM の変更が SCVMM ではなく Hyper-V マネージャを介して最近実行された場合は、リカバリ前チェックで VM について最新ではない情報が発生する場合があります。 p.44 の「NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される」を参照してください。

リカバリジョブの状態を調べる

進行中のリカバリジョブの状態を調べることも、すべてのリカバリジョブの履歴を表示することもできます。

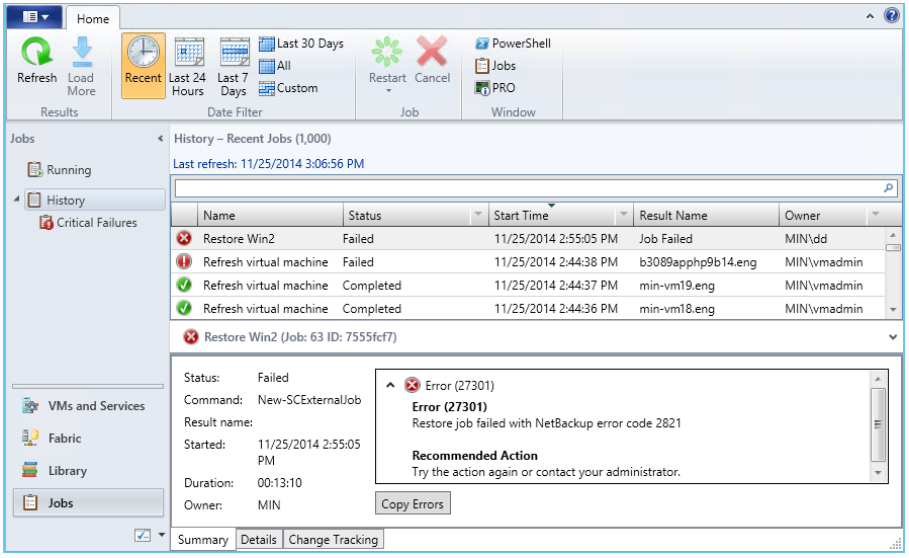
リカバリジョブの状態を調べるには

1. SCVMM コンソールで、[ジョブ (Jobs)]ワークスペースを開きます。
2. 進行中のジョブの場合は、[実行中 (Running)]をクリックします。



[状態 (Status)]列にジョブの完了率が表示されます。

3. 最近のジョブと過去のジョブを表示する場合は、[履歴 (History)]をクリックします。



進行中のジョブすべての[状態 (Status)]列に、[完了 (Completed)]または[失敗 (Failed)]の状態が示されます。

NetBackup マスターサーバーが切断された場合やリカバリ中に停止した場合は、[状態 (Status)]列が次のように更新されます。

```
Failed - Lost connection with NetBackup Master Server.
```

注意: 列ヘッダーをクリックするとリストの順序を変更できます。

注意: [再起動 (Restart)]ボタンと[キャンセル (Cancel)]ボタンは利用できないのでグレー表示されます。

4

トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて
- SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示
- SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更
- NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて

SCVMM 対応 NetBackup アドインは、次の活動をログメッセージとして記録します。

- NetBackup アドインによる VM のリストア。
- NetBackup アドインからの NetBackup マスターサーバーの追加または削除。

表 4-1 SCVMM 対応 NetBackup アドインのログ

ログの詳細	説明

ログメッセージ形式	`yyyy-mm-dd hh:mm:ss,ms [pid] message`
	次に例を示します。
	`2014-09-24 14:57:32,408 [1] INFO - Loading SCVMMAddin`

ログレベル	複数のログ記録レベル (詳細度) があります。 p.44 の「SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更」を参照してください。

ログの詳細	説明
ログの場所	ログの場所は SCVMM のインストール場所とログオンユーザーによって異なります。 次に、ユーザー JDoe のログ先の例を示します。 C:¥Program Files¥Microsoft System Center 2012 R2¥Virtual Machine Manager¥Bin¥AddInPipeline¥AddIns¥JDoe¥SymcNBUAddIn¥Logs p.42 の「SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示 」を参照してください。
ログの保持期間	すべてのログメッセージは 24 時間同じログファイルに書き込まれます。各ログファイルは 7 日間保有され、その後、自動的に削除されます。

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示

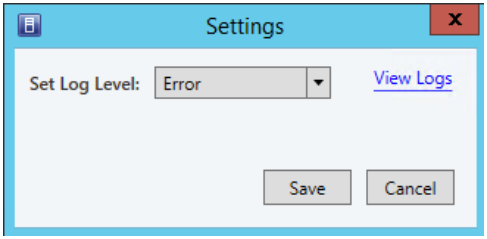
メモ: ログファイルは 7 日間保有され、その後自動的に削除されます。

メモ: NetBackup アドインに対して 24 時間ログ活動が発生しなければ、ログファイルは作成されません。

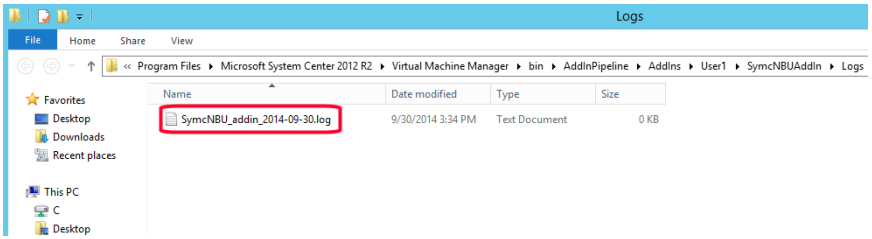
SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージを表示する方法

1. SCVMM コンソールで、[VM とサービス (VMs and Services)]ワークスペースを開きます。
2. [すべてのホスト (All Hosts)]をクリックします。
3. SCVMM リボンで、[NetBackup]オプションをクリックします。
4. [設定]をクリックします。

5 [ログの表示 (View Logs)]をクリックします。



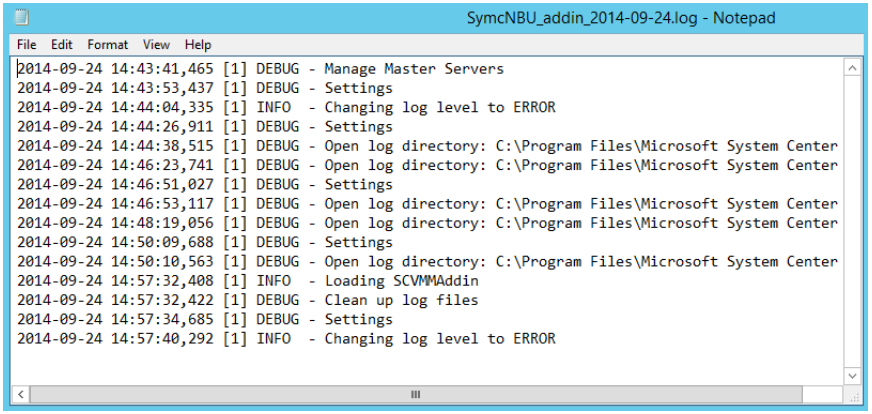
次のようなログファイルが表示されます。



メモ: ログは NetBackup アドインをインストールしたディレクトリに書き込まれます。

6 ログファイルをダブルクリックします。

次のようなログファイルが開きます。

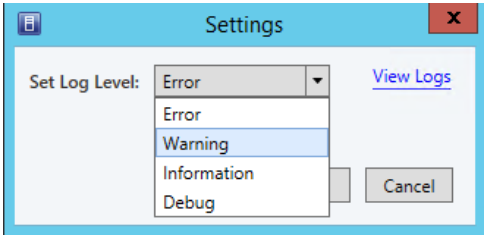


7 終了したら、[ログ (Logs)]ウィンドウを閉じ、[キャンセル (Cancel)]をクリックします。

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更

ログレベルを変更する方法

1. SCVMM コンソールで、[VM とサービス (VMs and Services)]ワークスペースを開きます。
2. [すべてのホスト (All Hosts)]をクリックします。
3. SCVMM コンソールリボンの[NetBackup]オプションをクリックします。
4. [設定]をクリックします。
5. [ログレベルの設定 (Set Log Level)]を使って、別のレベルを選択します。



デフォルトでは、ログは最小詳細レベル (エラーレベル) に設定されます。利用可能なレベルは次のとおりです。

エラー	デフォルトレベル。
警告 (Warning)	エラーメッセージを含みます。
情報	警告およびエラーメッセージを含みます。
= デバッグ	情報、警告、およびエラーメッセージを含みます。最高詳細レベルです。

6. [保存 (Save)]をクリックします。

NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される

アドインリカバリウィザードの[設定の確認 (Review Settings)]画面の[リカバリ (Recover)]をクリックすると、選択内容とリカバリ対象を検証するためのリカバリ前検査がウィザードで実行されます。ただし、SCVMM ではなく、Hyper-V マネージャを介して最近 VM に変更が加えられた場合は、リカバリ前検査で、その VM に関する古い情報が提供される場

合があります。個別の Hyper-V ホストまたはクラスタで Hyper-V マネージャを通して適用された変更が SCVMM に反映されるまで、最大で 24 時間かかる場合があります。この遅延は、Microsoft SCVMM の更新サイクルが原因で、NetBackup アドインはこれを制御しません。

たとえば、VM が Hyper-V マネージャを通して最近削除された場合は、この削除が SCVMM にまだ反映されていない可能性があります。この場合は、アドインのリカバリ前検査で、VM がまだ残っている状態がレポートされます。次のメッセージが表示されます。

同じ ID を持つ仮想マシンが <ホスト名> にあり、上書きオプションが選択されていませんでした。(A virtual machine with the same identity exists on <host> and the overwrite option was not selected.) **リストアオプションを確認して、上書きを選択して続行してください。**(Please review restore options and select overwrite to continue.)

VM をリカバリするには、ウィザードの[リストアオプション (Restore Options)]画面に戻り、[既存の仮想マシンの上書き (Overwrite existing virtual machine)]を選択してリカバリを再実行します。

メモ: Microsoft 社は、SCVMM 環境では、VM 設定の変更を (個別のホストまたはクラスタの Hyper-V マネージャからではなく) SCVMM を通して行うことを推奨しています。SCVMM コンソールから行われた変更は、SCVMM ですぐに反映されます。この方法では、アドインのリカバリ前検査に VM の現在の状態が反映されます。